



JCNA 通信第 19 号

発行日 2016.5.
発行人 西村晶子
編集人 西久保秀子
創立 1957(S32)年
会員数 250 人
(2016.2 現在)

2015 年度テーマ

心の知恵を求めて ～行く、仕える、共にいる～

日本カトリック看護協会 会長 西村晶子

2014 年度は、第 57 回 JCNA 全国大会 in 広島が、大きな活動でありました。大会を担当されました広島支部長山口郁乃様、支部会員の皆様のご尽力を心から感謝申し上げます。また、幟町教会の皆様と、ボランティアの皆様の積極的ご協力があったことを知りました。この協力体制は、今後の JCNA の活動にも生かしていきたいと思えます。大会のテーマは「平和への希求—時代を生きる私たちの選択—」です。基調講演、基調講演、シンポジウム、広島平和記念講演見学、碑めぐりを通して、参加者は、平和実現のための選択課題をみつけられたと思えます。基調講演では、核・放射能・平和・健康を考える中で、3.11 福島の課題にも触れ、福島を忘れないという確認にもなったと思えます。人間の命と尊厳にかかわる戦争は、二度と繰り返してはならないことを、再度心に刻み、武力によらない平和、福島の復興などに関心を持ち、会員一人ひとりが『平和を実現する者』となれるよう広島大会から学びたいと思えます。

2015 年度は、昨年 10 月からのスタートです。本部役員の数、4 名のままですが、本部役員代行制度を取り入れました。これまでの活動を継続して取り組んでいくことを確認しております。新たには、HIV/AIDS に取り組みます。本部役員代行河野小夜子様を担当します。11 月にはアジア・カトリック医師会総会が京都で開催されます。JCNA は協賛団体です。本部役員代行京都支部長西川加之子様、副支部長山本信子様、2 名が担当します。そのため今年度の JCNA 全国大会はありません。支部長が参集する第 61 回 JCNA 総会は開催しますが、日程と場所、プログラムについては検討中です。2017 年の全国大会は横浜支部の担当です。その後はまだ決まっておりません。各支部長様、会員の皆様の積極的なご意見もおよせください。JCNA の発展には会員一人ひとりが、JCNA のめざしていることに心をとめて、自己改革のために、何を選択し行動していくか、そこにかかっていると思えます。個人としても支部としても、JCNA の発展を目指して頑張ってまいりたいと思えます。どうぞよろしくお願い致します。



2015年 全国大会 in 広島 10月23・24日

第57回大会「平和への希求－現代を生きる私たちの選択－」を終えて
～力は小さく弱くとも～

広島支部支部長 山口郁乃

「カトリック医療施設のない教区だし会員も少ないけど、全国大会を一度は受けよう！」

そんな決意で2015年全国大会は広島で開催となりました。戦後70年がさまざまな角度から考証される時、JCNAも勇気を持って平和のために働くよう、主が望まれたのだと思っています。

広島で開催と決めてから、開催地広島の司教神父様方、出演者や諸関係者に、この全国大会についての説明が必要でした。その際、JCNAの存在の意義を、「イエス・キリストと聖母マリアに倣って病む人に奉仕する使徒職団体」であり、活動目的は「霊性の向上、友愛、研鑽」であると繰り返しました。おん父、主イエス、聖霊、聖母マリアなしにJCNAはないからです。隠れキリシタンにならず、主イエスと共にありたいものです。井深八重初代会長様作詩のJCNA会歌の歌詞がその精神をよく表していることに気づいたのも大会を担当したおかげでしょうか。

当日は望んでも得られないような良いお天気。しかし、いろいろご迷惑をおかけしました。不案内なバス、椅子の足りない狭い懇親会場、時間不足の講演、質疑応答ができないシンポジウム。申しわけないことでした。突発事態への処理能力が低いことも配慮不足も痛感いたしました。会員外の参加者26名様への連絡が不十分だったことも猛烈に反省です。どうぞおゆるしてください。

そうであっても、大会を担当した支部が得たのは、『愛され体験』です。主の祝福、人々のご支援（幟町の信徒の献身!）、地下の力、ゆたかに愛されました。大会担当を声かけして下さった薄島和子元会長、広島開催、平和への希求を強くすすめられた城麗子前会長、広島支部に任せて全面支援くださった西村晶子会長、3人の会長様に篤くお礼申しあげます。今は、次の世代のために平和を作ろう、トントントン……



JCNA会員の声

会員になって思うこと

東京支部 尾谷洋子

私は当会の会員となって日が浅く、JCNAの長い歴史の中で先輩達が大切に培ってきたものを十分に理解している訳ではありませんが、初めて今年の東京での全国大会に参加してみて少々物足りなさを感じましたのでその事を述べたいと思います。

運営方法や、いつもどんな内容が盛り込まれるのかまだよくわかりませんが、何か同窓会か親睦会にいたるようでした。特に会員からの事例報告がなかったことは残念に思いました。カトリックナースとして患者さんとの関わり、気づき、感じた事や日々の看護の中で悩む事などの報告があるのかと私が勝手に期待してしまっただけからかもしれません。

この会はカトリックの信仰をもった看護職の職能集団でもあります。医療をテーマにしたシンポジウムなどをもつことはできないでしょうか。例えば生殖医療はどんどん進み生命も人工的に操作されそうです。臨床現場でカトリックナースとして皆様どのように対峙されているのでしょうか。会員どうし信仰を深めながら現実の医療の課題などを討議し活気ある会になることを願っています。

自分自身も事例報告などできなければ大きなことは言えません。まずは自分の出来るものから協力していかなければと思っていますところです。

第60回全国総会に出席して

長崎支部 支部長 大山久美子

現在総会は旅費や、休暇をとれる日数などを考慮して大会当日の午前中に行われています。時間不足で審議が十分できない現状があります。

総会の数か月前に全会員に広くアンケートを実施し、その結果から得られた意見・要望を本部役員で検討し総会の議案を作成し、再度支部会員に諮り、会員全員が総会の審議事項を理解しておくという方法も考えられます。もちろん本部からの議案も会員に事前に提示して頂きたいと思います。

会員がアンケートに答え、本部役員がアンケートの収集を行うなど時間と労力を要することになり、負担が増えますが、毎年行われる総会がより良いものとなるために何か工夫が必要なのかもしれません。

総会に出席する支部長は本部から送られてきた審議事項、決算書などに目を通して総会では一言でも意見を出せるように心がけたり、支部報告では持ち時間を可能な限り厳守し、他の審議時間に割り込まないように準備したりすると良いと思います。

本部役員改選直後など、以前決議された内容が明確でないことが発生していますので、元会長、前会長は有職議員もしくはオブザーバーとして総会に出席してほしいと思います。

連載～顧問司祭から JCNA 会員への手紙 第3回

福岡支部 顧問司祭 ワユディ・デンニ神父「私の物語（抄）」

私は1974年11月24日、インドネシア東ジャワ州マディウンという小さな町で生まれました。私は高校卒業後ジャカルタに出ていくまでその小さな町で育ちました。

私はマディウンの宣教師クラリス姉妹会に属するパンティバジジャ病院で生まれ、ウルスリム姉妹会の聖ベルナルダス幼稚園に通い、アロイシウス兄弟会の聖ヨセフ小学校に6年通いました。14歳から16歳までは洗礼志願者として教えを受け、そして1990年12月24日イタリアのビンセンシオ司祭により洗礼を受けることとなりました。

キリスト教における私の精神を形成した人々は、今なお私の心と記憶の中にあります。私の精神に影響を与えてくれた人々に対して感謝の気持ちに満ちあふれ、そして国に帰るたびに彼らに会うことは私の喜びであります。私の生まれ育った町で受けた教育と経験によって植えつけられた宣教師の種は、聖ザベリオ宣教会の聖職者へと実を結んだのだと思います。マディウンの私を知る人々は私が司祭になるとは思ってもみなかったことでしょう。なぜなら私が洗礼を受けたのは16歳だったのですから。私の母はカトリック信者でしたが、父はそうではありませんでした。

私の宣教師としての召命の重要な物語は、近所に住むカトリック教徒の女性が私にこう言ったのが始まりでした。「あなたは司祭になる価値がある。特別な方法で、あなたのために祈ってあげましょう。」その女性の声とメッセージが司祭になるための神学校へと私を導いていったのは明白です。1991年5月に聖ザベリオ宣教会の広告が載った新聞を見つけました。しかも、それは私が司祭になると言ったあの女性の家で見つけたのです。宣教師になるという考えは10代の私の心に根付きましたが、それを父に告げると父は動揺しました。父はカトリック信者ではありませんから、当然です。

聖ザベリオ宣教会に入るといふ私の思いは続き、1996年に入会しました。私は哲学と神学をインドネシアとシカゴで学びました。2007年8月15日、ジャカルタで聖ザベリオ宣教会の司祭に任命された後、イタリア語習得のためにイタリアのアンコーナで10か月過ごし、そして2008年8月3日、日本に着任しました。それ以来ずっと熊本に住んでいます。日本に、特に熊本に在ることをとてもありがたく思っていますし、いつも幸福に感じています。ふだんの生活や私が仕える教会での人々との出会いが私の幸福です。現在私は熊本のカトリック武蔵ヶ丘教会で主任司祭として働いています。そこには私が指導する約400名の教区民がおり、そのうち31名は恵楓園（政府が運営するハンセン病患者の特別施設）の方たちです。ここ日本で人生の最後まで神に仕え、神の愛を分かち合う為に日々自分自身であることを、私の使命として希望します。宣教師として遣わされたこの地で、人々と一緒に残りの人生を私自身として受容する準備ができています。

私たちはいつか死んでしまうことを知っていますが、いつ、どこで、どのように死ぬのかはわかりません。これらすべては未だ神秘的なのです。本日の福音書の中で、イエスは私たちにこのように思い出させるのです。「誰でも自分の命を救おうとする者はそれを失い、失う者はそれを保つ。」

人は人生の質よりもその長さが重要だと思っています。おそらく、私達はそのような考えをしているでしょう。人は食べたり、飲んだり、買ったり、売ったり、植えたり、建てたり、めとったり、働いたり、そして休んだりします。しかし、そういう人たちは真に生きていないのです。死んでいるわけではありませんが、彼らの人生を真から理解しているわけではありません。「人生の真の理解」をインドネシア語では「メング ハヤティ “menghayati”」と言います。その根源はHATI（ハチ）、すなわち「心」を表します。それゆえ、メング ハヤティは「心から理解するように努める」という意味です。私たちはどのように私たちの人生を真に理解し、また真に生きることができるのでしょうか？ その質問には3つの答えがあります。人生の真の理解とは、あなたの人生を個人的に理解すること、あなたの今を理解すること、そして、この場所を理解することです。

ボンヘッファー（ドイツの神学者）の言葉です。「イエスは新しい宗教を私たちに授けるためではなく、人生を授けるためにこの世にいらっしゃった。『私が来ることで彼らは人生を、豊かな人生を持つであろう。』とイエスはおっしゃった。」

自分の人生をよく理解してください。そうすることであなたはイエス、我が主、我が父を幸福にすることができるのです。永遠の生が今始まります。

本部注：全文は、ホームページに掲載させていただきます。



支部活動☆短信

<p>◆札幌◆ 支部長 佐藤昇子 今年最後の行事となったクリスマス会には、初めての方を含め14名が参加。ケン神父様のご指導で「待降節と慈しみ」について勉強と黙想をし、洗濯バサミの幼きイエス様と飼い葉桶のクラフト作り、ごミサに引き続き、茶話会・プレゼント交換と、温かい集いとなりました。</p>	<p>◆仙台◆ 支部長 古関睦 仮設住宅にお住まいの方々の手作り品の広島大会での売り上げ金と材料の糸糸等をお届けし交流を深めました。身体障害者、高齢施設の方とのクリスマスの救護班や、JCMAとの合同例会で神父様達の健康をどう支えるか？食に関し、アンケートを作成し発送しました。</p>	<p>◆新潟◆ 支部長 大瀧久江 顧問司祭バッシン神父様のお誕生日はキリストと同日の12月24日です。93歳になられました。12月6日に少し早く霊的花束と生花でお祝いをしました。これからも、お元気で私達をお導きくださいとお祈りしました。</p>	<p>◆東京◆ 支部長 西村晶子 12月6日JCMAと合同の黙想会開催17名参加。聖書の箇所から「ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられたイエス。あなたの存在を、人にあげなさい。Presentでなく、presenceを」…など学び分かち合いました。19日はクリスマス会13名参加。</p>
<p>◆横浜◆ 支部長 井坂玲子</p> 	<p>◆名古屋・名古屋G◆ 前支部長 南原摩利 12月の支部例会はクリスマスの集いを開催。初めて参加下さった方もあり、お食事を食べながら主のご降誕をお祝いしました。毎月聖霊病院の会議室にて例会を持っているので、興味ある方へ参加を呼びかけ、JCNAの輪を広げていければと思います。新しい年が、恵みあふれる一年となりますように。</p> <p>◆金沢G◆ 宮村千草</p>		<p>◆京都◆ 支部長 西川加之子 2月13日にカトリック医師会京都支部と共同で講演会を開催します。講師は奥村豊神父様。テーマは「わたしが病気になって思ったこと」です。1月下旬には教区事務所に行き、ポスターの配送依頼をします。近隣支部の方どうぞ御出で下さい。</p>
<p>【告知】 JCNAはAFCMA第16回大会in京都 に協賛しています。詳細はホームページへ。</p>			
<p>◆大阪・大阪G◆ 支部長 向井定子 震災から四年余り。福島第一原発に近いカリタス原町ベースに行き、避難指示区域を巡り、原発事故の黒いトン袋が広大な地に山積、益々増えた。30ヶ所もの仮設住宅、その仮設住宅集会所で、皆様と触れ合う。寄り添う心で話を聞き、自宅に帰る日をと願っています。Sr.小嶋康子</p>	<p>◆姫路G◆ sr.川口百合子</p>	<p>◆広島◆ 支部長 山口郁乃 大会集録はテーブル起こし中です。今しばらくお待ちください。東京大会集録に引き続き、広告も掲載しました。大会の実りとして広島市から2名の加入申し込みがあり、新年の例会で顔合わせできればと期待しています。新しい展開です。</p>	<p>◆高松◆ 支部長 藤田美美緒 全国総会のあと11月14日に支部総会を開き、全国総会で報告した内容を確認し、少人数でも活動を続けていこうと話し合いました。</p>
<p>【重要なお知らせ】 会員更新手続きはお済みですか？ JCNA会期9/1～8/31。まだの方はお早目に。</p>			
<p>◆福岡◆ 支部長 牧山幸二 支部例会を9/13、11/22、1/24に実施。諸事情により、今後例会は奇数月の第4日曜日に、ショファイユの幼きイエス修道会で行うことになりました。病の床にあるシスター竹内と、フランスに派遣されるシスター入江のために祈っています。</p>	<p>◆長崎◆ 前支部長 大山久美子 昨年10月の広島大会に長崎支部は7名参加致しました。同じ被爆地である長崎の私たちは、平和について改めて学びの時を持ってたことを感謝致しております。今年も平和の源である主イエスに信頼して歩みたいと思います。</p>	<p>◆大分◆ 支部長 阿南幸子 広島の全国大会は有意義な学びの多い会でした。広島支部の皆様は厚く御礼申し上げます。10/25は日出殉教祭への救護活動、12/6の例会は顧問司祭より「主の道を整えなさい」のみ言葉を頂き、意見交換、クリスマスを迎える心の準備をして2015年を締めくくりました。</p>	<p>◆鹿児島◆ 支部長 松村精子 今年度最後の「ゆらいあい」（高齢者の信者の集い）では、長崎純心聖母会のシスター山頭による殉教者レオ七右衛門の紙芝居が有りました。参加者は殉教の場に引き込まれ、心の高まりを覚えたようです。参加者の黙想にもなりました。</p>

●本部の活動● 2015年9月～2016年5月

10/23 (金)	JCNA 全国総会	・会計報告、監査・事業報告 ・各団体が主催する事業について 他	広島
10/29 (木)	第2回カトリック医療団体 協議会運営委員会	・各議事について	熊本
11/23 (月)	第1回本部役員会	・本部役員代行、規約改正、全国総会開 催について	磯子教会
2/27 (土)	第2回本部役員会	・AFCMA、会員数・会員報告、人事に ついて	磯子教会
5/14 (土)	第3回本部役員会	・各活動の報告、第61回JCNA総会	磯子教会
5/25 (水)	JCNA 通信第19号発行	・全国大会 in 広島 特集	—



JCNA は、熊本の皆様、九州の皆様のために、
心を合わせてお祈りしたいと思います。

写真) デンニ神父様とシスター方

編集後記

通信をお届けするのが遅れに遅れてしまいましたこととお詫び申し上げます。

「こんなに遅れては意味がない、支部長全員に謝れ」と厳しいご叱正を頂いたり、「何があったのですか」とお尋ね下さったり、色々なお声を頂戴しました。会員の皆様、ご執筆の皆様、ご心配とご迷惑をおかけし、誠に申し訳ありません。正直に申し上げますと、深刻な本部間、本部・支部間のコミュニケーションの不足が原因でした。

以前のJCNAのように「年に一度しか発行されない通信」ということのないよう、皆様のお祈りを頂き、今年度はあと一号の発行に努めたいと思います。N.

JCNA 通信第19号 2016.5.発行

- ◇会長 西村晶子 ◇副会長 井坂玲子
- ◇書記・広報 西久保秀子
- 広報メール jcnahonbu@outlook.com
- ホームページ http://www.jcna/info
- ツイッター https://twitter.com/jcna_honbu
- ◇会計 平田初枝
- ◇本部事務局 西村晶子
- 〒179-0082 東京都練馬区豊玉南 1-11-10-106
- 電話/FAX 03-3557-3812
- メール snishimura12252000@gmail.com
- ◇本部顧問司祭 飯野雅彦(カトリック磯子教会)